

あーばんとーく

- 平成20年度こうべまちづくり学校<基礎講座>閉幕(P.1,2)
- 神戸らしい眺望景観 10選を訪ねて「ヴィナステラスからの眺め」(P.2)
- 旧居留地“空間像共有の系譜”③(P.3)
- まちづくり会館展示のお知らせほか(P.4)

あーばんとーくの感想をお寄せ下さい！

発行：こうべまちづくり会館

<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

平成20年度

こうべまちづくり学校<基礎講座>好評のうちに閉幕！

平成14年に創設され、今年で7年目になる「こうべまちづくり学校」が、去る5月29日、当まちづくり会館にて開校しました。

開校式では、安田丑作新学校長から、「まちづくりは人づくりが最も基本。皆さんの取り組みが地域の強化に繋がる。ここで学んだことをそれぞれの地域の活動に役立てて欲しい」との挨拶がありました。

いずれも各分野の第一人者の先生方を講師にお招きして、全5回の「基礎講座」の講義を行い、計57名が修了されました。

その講義の模様をふりかえり、講師陣の言葉とともにその一部をご紹介します。



第1回



「神戸のまちの歴史」

園田学院女子大学
田辺真人教授

遠き昔の律令国家時代から明治維新そして大正デモクラシーに至る神戸の知られざる歴史について「田辺節」ともいべき軽妙な語り口で語られました。

『公的な法による全国一律支配は日本の歴史の中でも701年の大宝律令と明治維新の2回しかない。9世紀以後の荘園制・摂関政治・院政・幕藩体制は全て法の根柢のない私的な力で支配する政治。これが明治維新までつづいた。…神戸というまちはその明治維新の後で誕生した』

今後の私たちの地域活動において、基本的な知識として知っておきたい、まちづくり協定・地区計画・建築協定・景観形成市民協定などのルールの解説や、ルールを活用した神戸市内でのまちづくり事例の紹介がありました。

『ルールづくりはまちの50年先を見据えた漢方薬のようなもの。…直接“もの”をつくる外科手術のような急激な効果はない。…建物高さや建ぺい率とかいった細かい数値よりも、ルールの基本的な考え方やルールがどういう目的に使えるか、どういう場合に使えば効果的かを学んでいただければ』

第2回



「神戸のまちづくり・ルールづくり」

神戸大学大学院工学研究科
三輪康一准教授

国内外の諸都市の景観施策の先進事例と神戸での事例を重ねて紹介。景観を構成する重要な要素についての説明がありました。

『記憶に残りやすい景観には5つの要素がある。①パス（軸線：道路など）、②ノード（結び目：交差点、駅、港など）、③エッジ（先端：川添いの水際線など）、④ディストリクト（地区：同質的な広がり）、⑤ランドマーク。この5つがきれいにできていること』

第3回



「神戸の都市デザイン」

関西学院大学総合政策学部
加藤晃規教授

家屋の耐震化や減災に関する諸対策とその現状について、なぜ、被災地神戸でさえ家屋の耐震化がなかなか進まないのかを設計者の視点も含めて掘り下げて分析し、実物大地震実験の映像なども交え、建物の耐震化のみならず家具固定など身近な備えの重要性と具体的な対策などの説明がありました。

『災害は文明と共に進化する。・・・いくら技術が進歩しても安全性を見直して行かないと思わぬ落とし穴がある場合がある。・・・南海地震が起こるXデーに確実に近づいているという現実を我々は再認識する必要がある。・・・地震防災についてのイメージ訓練が大事!』



第4回

「迫り来る地域リスクに備える」

神戸大学大学院工学研究科
大西一嘉准教授

第5回



「これからの神戸の地域活動」

同志社大学社会学部
立木茂雄教授

日頃の良好な人付き合いこそが財産（＝資本）であるとする「ソーシャルキャピタル」の概念について説明があり、地域に入って調査した結果などをもとに、地域の連帯の強さとまちの安全性の相関関係などについての説明がありました。

『神戸の震災からの復興の中で、地域社会が果たした役割を改めて考えると、ソーシャルキャピタルを豊かにする、あるいはソーシャルキャピタルの重要性を気づく過程であったかも知れない。・・・ソーシャルキャピタルが豊かになるとその地域はより安全・安心なものになる』

神戸らしい眺望景観 10 選を訪ねて 「ヴィーナステラスからの眺め」

～手が届きそうな海と“まち”に神戸の魅力がつまっています。～

神戸の街並みを一望できるヴィーナステラスやヴィーナズブリッジは、市街地北端の山麓部、標高約 150m の位置にあり、都心から気軽に行ける展望広場です。

緑に囲まれたヴィーナステラスからは、眼前のメリケンパーク、神戸港や都心の街並みをはじめ、六甲アイランドから須磨にいたる市街地、さらには大阪から淡路島まで見渡せます。山とまちと海の3つの景観資源をぎゅっと凝縮して望める、ここヴィーナステラスは、神戸自慢の景観スポットです。夜間景観もすばらしく、みなさんもぜひ足を運んで、神戸の良さを感じとっていただきたいと思えます。



ヴィーナズブリッジの名称の由来は、1874年にフランス人の天体観測隊が諏訪山遊園内（後の諏訪山公園）で金星（ヴィーナズ）の観測を行ったことからきています（諏訪山公園の展望台は「金星台」と呼ばれています）。

また、ヴィーナズが美と愛の女神を指すことから、恋人たちが愛のメッセージを書いた錠を手すりに取りつけ、愛を誓う場所として定着してきました。その後、急増した錠が問題となったため、平成16年にはヴィーナステラスに、恋人たちが自由に錠を取りつけ、願いをかけられる「愛の錠モニュメント」が設置されました。恋人たちが願いをこめて、モニュメントに取り付けた錠は、満杯になると取り外され、溶かされて、メモリアルプレートとしてモニュメント近くの地面に埋め込まれています。(^^) v

(神戸市都市計画総局計画部景観室)

Design City KOBE

映像で見る神戸のまちと建築

～神戸らしい“場所”を仮想体験しよう～

神戸の建築、街並み、眺望景観などをQTVRで体験してみませんか。神戸らしい眺望景観50選・10選や景観計画区域などの見所を、臨場感あふれる全周・全天の映像でご紹介します。

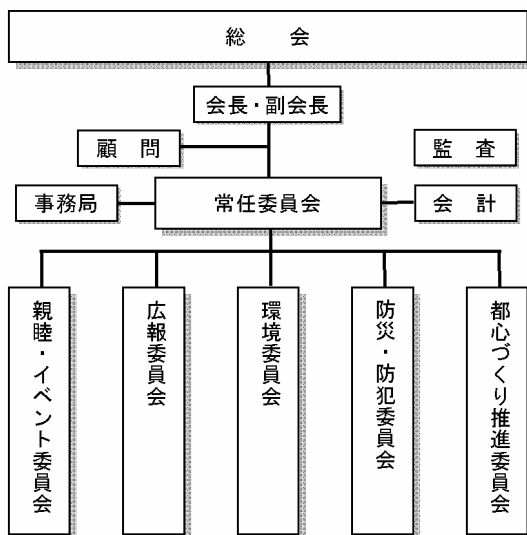
前稿では、旧居留地における「空間像の共有」がいか
にして「新たな街並み形成」へ進展してきたかを記しま
した。では、このような活動を可能とした要因は何だっ
たのでしょうか。

■企業市民による地域コミュニティの存在

先にも少しふれましたが、旧居留地には、地区内で事
業を営む法人 100 余社の集まりである「旧居留地連絡
協議会」が組織されており、近年の街並み・まちづくりに
大きな役割を果たしてきました。同協議会は第二次世界
大戦中に発足した「国際地区共助会」を母体にしたもの
で、1983 年、会員の増強を図り運営体制が強化され、
名称も現在のものに変更されました。

地区内企業間の“親睦”を第一義に、就業環境の向上
を目指して活動が続けられてきたもので、会員企業の事
業振興を目的とするものではなく、むしろ会の活動に仕
事を持ち込まないことを前提としています。この基本姿
勢は現在に至るまで一貫して会員間で確認されており、
全国的にも稀な企業市民による地域コミュニティが形成
されてきたといえます。

会の運営にあたっては、会員企業の規模や業種、立場
に関係なく一律の会費を徴収し、発言権も同等であるこ
とを原則としています。そして 20 名程度からなる常任
委員会を中心に、平成に入る頃からはその下部組織とし
て専門委員会を設け、多方面にわたる活発な活動が続け
られてきました。



「旧居留地連絡協議会」の組織構成

また、阪神・淡路大震災後は、復興に向けての活動が
精力的に進められてきたことは前稿までに記したとおり
ですが、街並みづくりのための指針、あるいは規範とし
て「神戸旧居留地／復興計画」（1995 年）や「都心(ま
ち)づくりガイドライン」（1997 年）、「広告物ガイドラ
イン」（2003 年）なども策定・発行し、街のあり方を
地区内外に提案しています。

営業面では直接プラスにならないと思われる業種が大
多数の会員間で合意し、このような自律的な活動を展開
できたのは、勿論、神戸の都心業務地を構成する企業と
しての責任を果たすという各社の意識も大きいのですが、
それ以上に、50 年を超える長い時間、親睦を旨として
続けてこられた協議会の活動（＝日頃のおつきあい＝企
業コミュニティの存在）に負うところが大きいように感
じられます。どのような性格のまちであれ、コミュニテ
ィの重要性は立証できるのではないのでしょうか。

■協議会による自己チェック体制と、行政との協働

一方、震災後の旧居留地の街並み形成にとって、上記
ガイドライン等が果たした役割は大きいといえます。その
策定には、多くの会員が係わり議論を重ね、まちの将来
像や街並み形成にあたっての視点を共有し、これらが以
後のまちに対する一つの価値判断基準になりました。そ
してその有効性は、現在に至るまで保たれています。

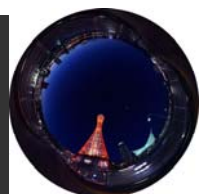
建築物の新・増・改築や広告物の掲出等にあたっては、
地区計画や都市景観条例等に基づいて神戸市に行為の届
出を義務づけられていますが、同時に、協議会への事前
相談も紳士協定として求められており、この場で街並み
という観点からの意見交換や計画の改善要請がなされま
す。協議会内での街に対する緩やかな意思統一と相互啓
発、言葉を換えれば空間像の共有を持続させるシステム
です。

行政による届出制度が最低基準を規定したものである
のに対し、地元まちづくり組織である旧居留地連絡協
議会によって策定された計画やガイドラインは、望まれる
到達点とその実現手法を提示しており、いわば規制力
のあるミニマムと理想を描いたマキシマムの双方を示すも
ので、それらが街並み・まちづくりを進める上で互いに
補完しあい、有効に作用し続けているといえます。

旧居留地地区には、都市景観形成地域（1983 年）及び地区計画
（1995 年）が指定・決定されている。

QTVR (Quick Time Virtual Reality) は、デジタルカ
メラで天地を含む全方向を撮影し、コンピュータで処理
することにより、仮想の立方体の 6 面に各方向の画像を
貼り付けた仮想空間として再現し、様々な方向を自由
に見ることができるようにしたものです。
神戸市在住の QTVR クリエイター山道正男さんの作品
を展示しています。http://yamamichi.no-ip.com/

平成 20 年 8 月 28 日 (木) ~ 9 月 2 日 (火)
午前 10 : 00 ~ 午後 6 : 00
こうべまちづくり会館 1 階オープンギャラリー (入場無料)
山道正男氏による QTVR のつくり方講座
8/29 (金) 18:30 ~ 19:30 / 8/30 (土) 14:00 ~ 15:00
こうべまちづくり会館 3 階 (参加無料)



こうべまちづくり会館企画展

木村重夫 土井稔 二人展

— 思い出の神戸風景 —

7月31日(木)
～8月5日(火)

午前10時～午後6時
こうべまちづくり会館ギャラリー
＜入場無料＞

木村重夫
北野 異人館の秋
(水彩)
1986年



土井 稔
ラインの館
(油彩)
1987年



木村重夫
朝日会館
(水彩)
1989年



土井 稔
チキンジョージ
(油彩)
1993年



主催 こうべまちづくり会館
協賛 元町商店街連合会
後援 神戸市
神戸市教育委員会
神戸市市民文化振興財団
みなと元町タウン協議会

まちづくり会館展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主催者
7月1日(火) ～ 31日(木)	神戸建築物語パネル展	神戸市都市計画総局建築技術部技術管理課
8月1日(火) ～ 26日(火)	建築ルール・手続き等の啓発パネル展	神戸市都市計画総局建築指導部安全対策課
8月28日(木) ～ 9月2日(火)	映像で見る神戸のまちと建築	神戸市都市計画総局計画部景観室

地階ギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主催者
7月18日(金) ～ 22日(火)	のむら・アート・るーむ作品展《油彩水彩他》	のむら・アート・るーむ
7月24日(木) ～ 29日(火)	28回三滴会書道展	三滴会
7月31日(木) ～ 8月5日(火)	〈企画展〉木村重夫・土井稔二人展《水彩・油彩》	こうべまちづくり会館
8月7日(木) ～ 12日(火)	第2回 高橋 喜久雄写真展	高橋 喜久雄
8月15日(金) ～ 19日(火)	三人展《油彩他》	土井 啓弘

展示時間：1階、地階いずれも午前10時～午後6時(水曜日休館) ※初日、最終日は展示時間に変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前10時～午後6時(水曜日休館)
場 所：元町商店街4丁目西端の南側角
地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分
神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分
「西元町」東口から東へ5分
JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分
〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14
電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546
ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談
受付：午前10時～午後6時(水曜日休館)
ただし、印刷は5時まで
電話・FAX：078-361-4565